

# 令和2年度地域生涯学習活動実践交流セミナー 事業報告書

## ○ 事業の概要

- 1 研究テーマ 地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働  
～地域を担う自己肯定感・自己有用感が高い若年層の育成～
- 2 目的 北海道における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例の交流等を通し、北海道における生涯学習活動推進上の課題解決を図る。
- 3 主催 北海道立生涯学習推進センター 北海道社会教育主事会協議会
- 4 期日 令和3年2月18日(木)
- 5 会場 WEB アプリ上 (Zoom)
- 6 対象 市町村・市町村教育委員会職員、社会教育士、各種審議会委員、生涯学習関連施設職員、社会教育関係団体職員、民間団体 等
- 7 参加状況 253名

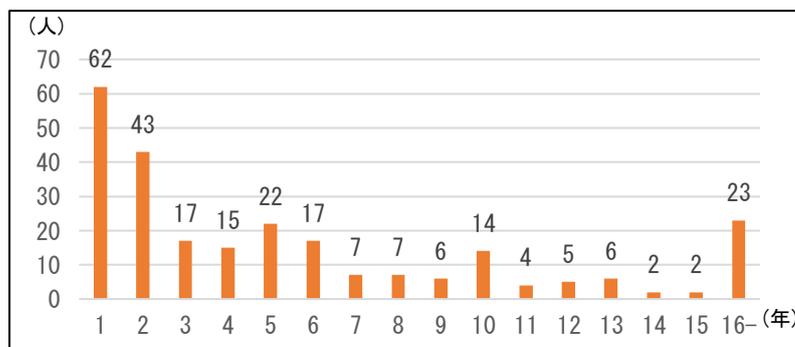
### (1) 管内別

ブロック	道央			道南				道北			道東				
	管内	空知	石狩	後志	胆振	渡島	日高	檜山	上川	留萌	宗谷	林-檜	十勝	釧路	根室
人数	11	22	14	12	13	25	13	37	6	9	44	22	16	9	
小計	47			63				52			91				
総計	253														

### (2) 所属別

属性	人数
市町村教育委員会職員	106
社会教育主事	117
社会教育士	12
社会教育委員	5
民間団体等	10
その他	3

### (3) 経験年数別



## 8 プログラム

9:45	10:00-10:45	11:00-11:45	13:15-14:00	14:15-15:00	15:15-16:45	16:45
	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	テーマ説明 ふりかえり	閉会
開会	講師 北海道医療大学教授 富家 直明 氏		講師 國學院大学准教授 青木 康太朗 氏			

本セミナーは、北海道の各地で行われている生涯学習活動の実践事例の交流を通し、「学び」と「活動」の循環を活性化させることを目的に、毎年開催している。また、道内の市町村の社会教育主事等で構成する「北海道社会教育主事会協議会」を中心に現状の課題に応じた研究テーマを定め、年間を通して北海道の社会教育の振興に向けて研究に取り組んでいる。今年度は、研究のスタートとしてサブテーマに掲げている「自己肯定感」をキーワードとし、学びを深めることとした。

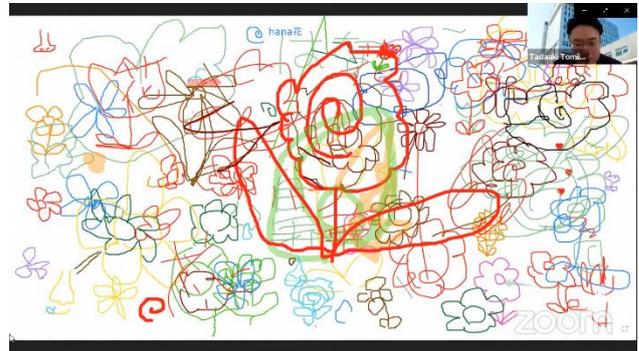
例年、札幌を会場に2日日程であった本セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、1日日程のオンラインによる開催とした。プログラムは、4つの講義とZoomのブレイクアウトルームを活用した「ふりかえり」から構成した。参加しやすさを考慮し、講義は選択受講可能とし、「ふりかえり」は北

海道社会教育主事会協議会会員を対象とした。これらの工夫により、例年を大きく上回る参加者数となり、コロナ禍であっても多くの社会教育関係職員等が学びを深めることができた。

(1) 講義 1 遠隔システムによる「つながり」づくり

講師 北海道医療大学教授 富家直明氏

講義1では、コロナ禍によりオンライン講義が主流となった中、集中力の低下、スケジュール管理の失敗、羞恥心から双方向性のやりとりができないといった遠隔授業でつまずいた事例から、参加者の環境整備や集中力を高める工夫、羞恥心を和らげるためのアイスブレイクやエンカウンターの方法などオンラインでのコミュニケーションの在り方について学んだ。参加者は、Zoomのホワイトボード機能を活用した「共同絵画」や1人の悩みに対して他の受講者がチャットで慰めの言葉をかける「チャットシャワー」などの演習を通し、オンライン上でも、相手の緊張をほぐすことができることを体感した。



共同絵画「思い思いの花を描こう！」

(2) 講義 2 コロナ禍における社会教育の役割

講師 北海道医療大学教授 富家直明氏

講義2では、感染症に対する意識に個人差があることを取り上げ、「リスク・コミュニケーション」、「ソーシャルサポート」の意義を理解し、地域住民のニーズに基づいたきめ細やかな学びの機会を提供することがコロナ禍における社会教育の役割であることを学んだ。地域住民の不安が高まっているコロナ禍においては、科学的信頼性の高い情報をもとに地域住民と「対話・共考・協働」を進める「リスク・コミュニケーター」の役割、直接的な支援・情報提供・情緒的な支え・サポートへの期待といった地域住民のメンタルヘルスの回復に重要な役割を果たす「ソーシャルサポーター」の役割が社会教育の専門家に期待されていることを理解できた。

(3) 講義 3 自己肯定感・自己有用感の理解

講師 國學院大学准教授 青木康太郎氏

講義3では、自己肯定感とは何か、子どもたちの自己肯定感の現状のほか、自己肯定感が「自尊感情」「自己有用感」「自己効力感」などからなり、「自分のあり方を積極的に評価できる感情や自らの価値や存在意義を肯定できる感情」であることから自分自身を肯定する部分、否定する部分の両方を受け止める必要があるという説明があった。

また、様々な調査データから、中学生、高校生の時に自己肯定感が下がり、その後、大人になるにつれて自己肯定感が高まっていくが、60歳頃を境に低くなっていく傾向が示された。自己肯定感がずっと低いままであったり、置かれた環境によって自己肯定感が不安定になったりすることがあり、ライフステージあわせて自己肯定感に働きかけることが重要であることを理解することができた。



(4) 講義 4 自己肯定感を高める社会教育事業の在り方

講師 國學院大学准教授 青木 康太郎 氏

講義3の内容をベースに、子どもの様子に着目して自己肯定感を高める社会教育事業の在り方について学んだ。

はじめに、自己肯定感が高い子ども、低い子どもにみられる特徴を確認し、どのような働きかけが子どもの自己肯定感を高めるのか、調査結果から説明があり、実際に社会教育事業を取り組む際のヒントを得ることができた。

最後に家庭では、一緒にいる時間をつくる、学校では地域人材を活用し、異年齢交流を行う、地域では地域ぐるみのあいさつ・声かけの励行を進めるなど、家庭・学校・地域における具体的な取組が示された。



(5) テーマ説明・ふりかえり

前半は、メインテーマ「地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働」、サブテーマ「地域を担う自己肯定感・自己有用感が高い若年層の育成」について説明した。

後半は、ふりかえりシートを用い、4～5名のグループ（ブレイクアウトルーム）で個々が講義から感じたこと、考えたことを交流した。

説明・進行 北海道立生涯学習推進センター職員

【ふりかえりシート】

④「自己肯定感」を育むための社会教育行政や社会教育行政職員の具体的な取組や行動を考えてみましょう。

- 対象に様々な体験の場（日常とは違う環境、人間関係）を提供
- その人の良いところ（場合によっては結果ではなくプロセスまでの過程）を積極的に褒めること。その人のために頑張っているところは指摘する必要はないかも。
- 人に達成感をもたせるような仕組み

①「自己肯定感とは」…講義から「自己肯定感」を自分の言葉で表してみましょう。

自分のよいところ、よくないところも含めて肯定する感情

- 日常とは異なる環境（人間関係）の中での体験を重ねる
- 人の役に立った実感
- 人に感謝される経験
- 家でも学校でも職場でもない場所（フリースペース）で社会教育のフィールドだから、自分のよいところに気付ける可能性が

②「自己肯定感を育成する方法」をまとめましょう

③「自己肯定感の向上」について社会教育行政が取り組む必要性をまとめましょう

## 9 実践報告

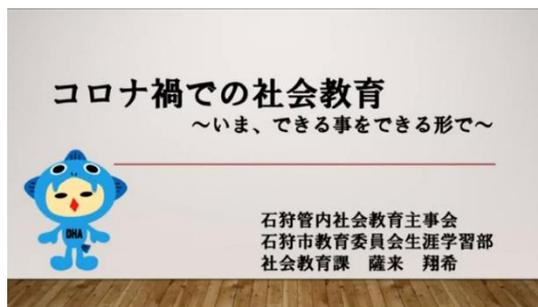
道内 14 管内の社会教育主事会による実践事例発表については、オンラインによる 1 日日程の開催となったことから各管内の実践事例発表資料を、北海道立生涯学習推進センターのホームページに掲載しする「実践報告」という形で実施した。

### 【各管内のテーマ】

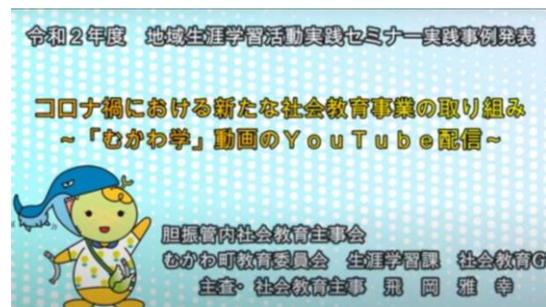
空知	新型コロナウイルス感染拡大予防しながら社会教育係で取り組んだこと（芦別市）
石狩	コロナ禍での社会教育～いま、できる事をできる形で～（石狩市）【動画あり】
後志	社会教育主事会のネットワークを活用したコロナ禍における社会教育の推進について
胆振	コロナ禍における新たな社会教育事業の取組～「むかわ学」動画のYouTube 配信～（むかわ町）【動画あり】
日高	日高管内における令和 2 年度の社会教育事業について～コロナ禍における社会教育推進の取組～【動画あり】
渡島	コロナ禍における社会教育推進の取組
檜山	家庭教育支援事業『親子 de よりみち広場』（せたな町）
上川	コロナ禍で止まらずに動いている社会教育事業の取組（和寒町）
留萌	留萌管内社会教育主事会の取組について
宗谷	コロナ禍における生涯学習の取り組みについて（稚内市）
オホーツク	新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について
十勝	（と）特別な仲間と（か）語ってみたい？（ち）地域の話【動画あり】
釧路	コロナ禍の社会教育行政の取組～厳しい時だからこそ生まれた新たな試み～（浜中町）
根室	羅臼町おこもり上手プログラム（羅臼町）

※【動画あり】が付記されている管内は、発表動画もホームページに掲載している。

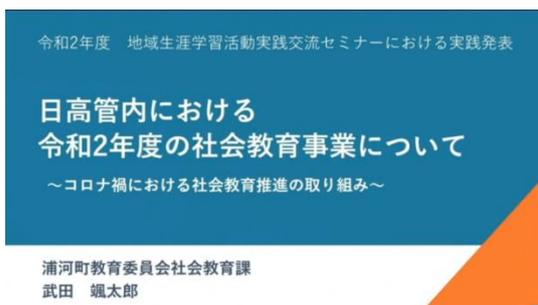
※URL <https://manabi.pref.hokkaido.jp/center/works/qqerj500000005w2.html>



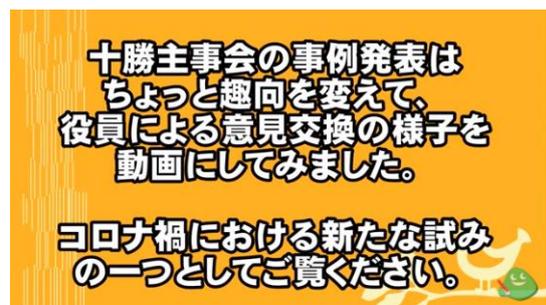
【石狩管内】



【胆振管内】



【日高管内】



【十勝管内】

## ○ 成果と課題

参加者アンケートなどをもとに令和2年度地域生涯学習活動実践交流セミナーの成果と課題を内容面、運営面から整理した。

参加者アンケート回収率 42% (回答数 106 件 / 参加者数 253 名)

参加者アンケート実施方法 GoogleForm

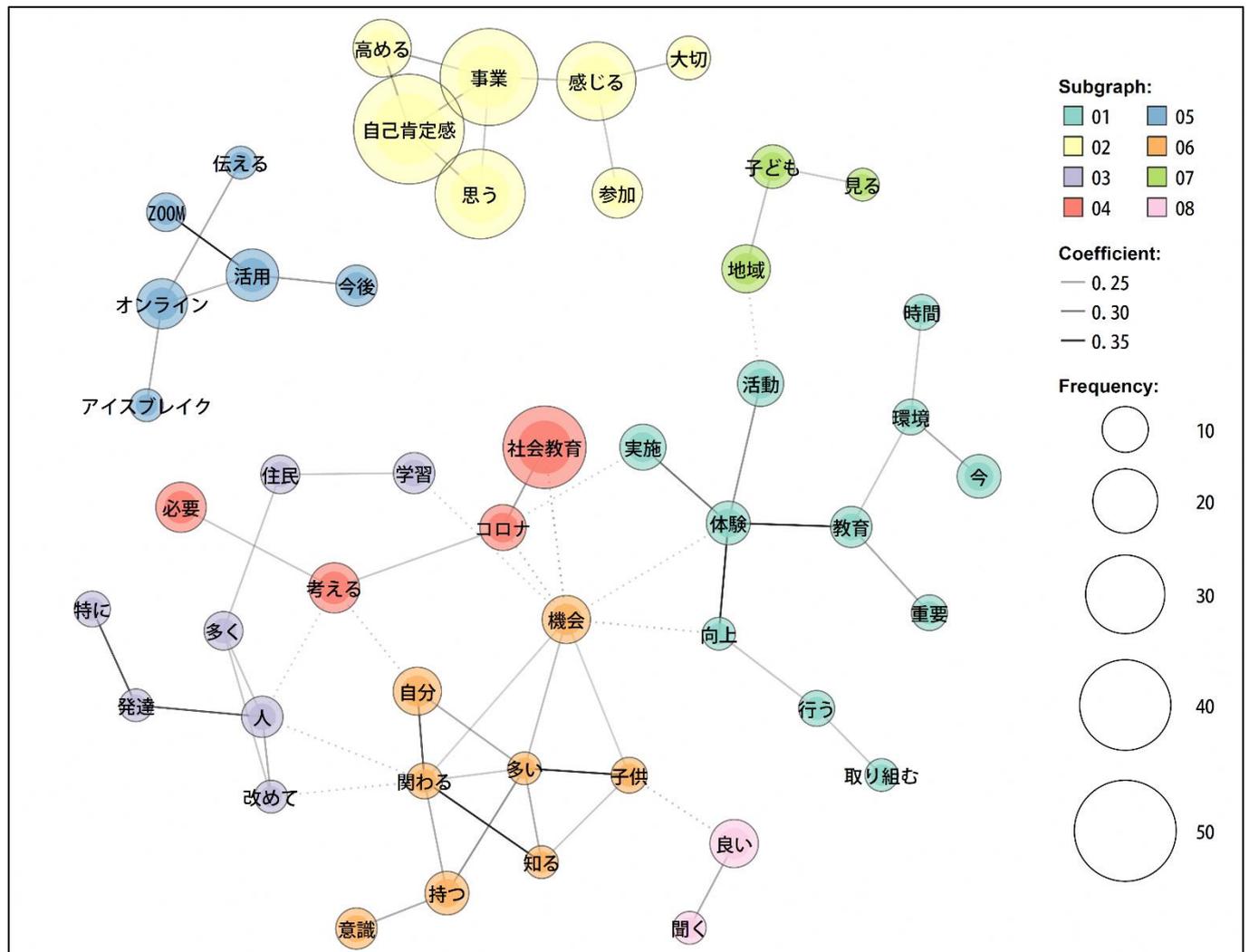
[内容面]

### ○ 成果

下の図は、「セミナーに参加してこれから実践したいこと・考えたこと・感じたこと」についてそれぞれの参加者が記述した内容の共通性をネットワークで表したもの。円の大きさは、その語句が使われた回数、円と円を結ぶ線の太さと長さは同時に使われる頻度を表している。「自己肯定感」と「社会教育」に着目するとそれぞれの円に結びつきは見られないが、「自己肯定感」と「事業」は非常に近い関係にある。これは、参加者の属性から「事業＝社会教育事業」と捉えることができ、社会教育事業が自己肯定感に影響を与えることを参加者が考えたことを表している。

### ● 課題

参加者アンケートには、なぜ「自己肯定感を取り上げるのか」「講義内容が現場業務に直結していない」という意見があった。研修会の目的を明確に参加者に伝えていく必要がある。



〔運営面〕

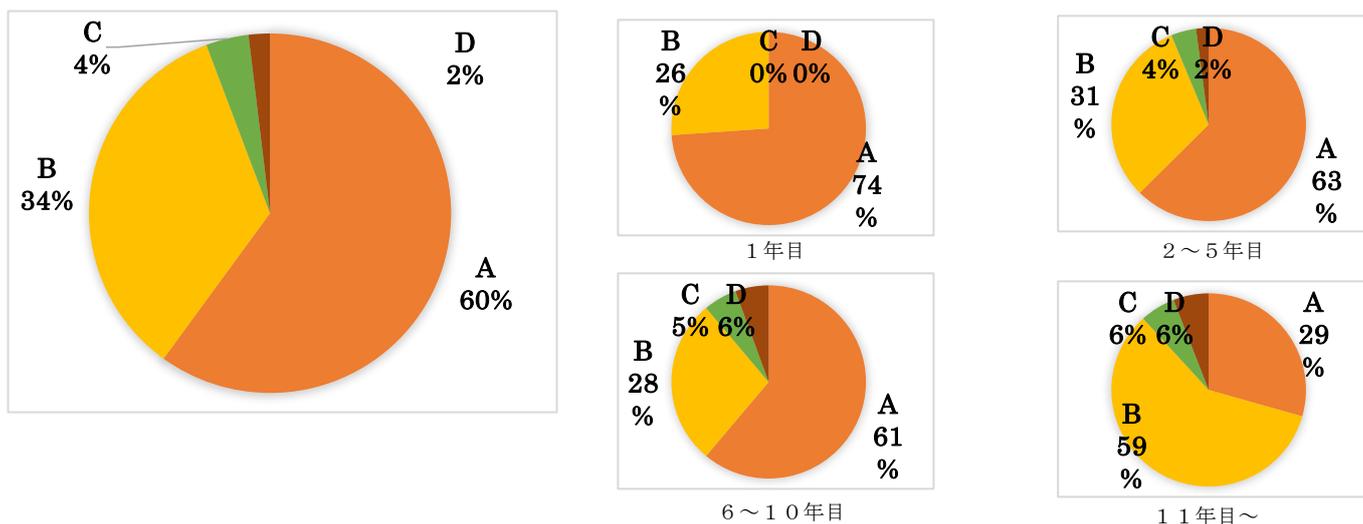
○成果

セミナー全体を通した満足度は、93%の参加者が「満足」と回答している。講義の満足度も95%の参加者が「満足」と回答している。講師選定、時間配分を含め参加者のニーズにあったプログラムを提供できたといえる。(※満足度の回答は(高)A・B・C・D(低)とし、A・Bの回答を「満足」とした。)

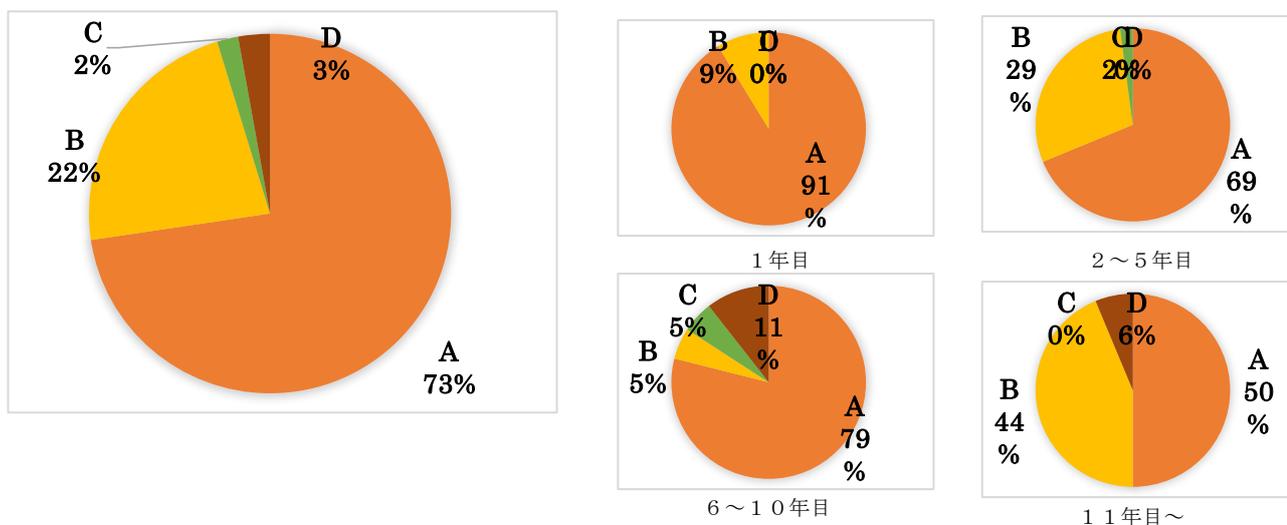
●課題

全体的な満足度は高かったが、参加者の経験年数によって差が生じている。今後もすべての参加者に寄り添ったプログラムを検討する必要がある。

〔セミナー全体を通した満足度 (満足度(高)A ↔ D(低))〕



〔講義の満足度 (満足度(高)A ↔ D(低))〕



○成果

オンライン開催としたことにより、例年を上回る参加者となり、これまで本セミナーに参加していない人那智が学びを深めることができた。

●課題

運営者の事前の準備を含めたオンラインに関する技術面のスキルの向上により、参加者のストレスを軽減する必要がある。